

編集後記

私が勤務する首都圏の中堅私大では、1月と2月は(他大学の例にもれず)卒業論文や学位論文の指導に忙しい。1月も終わりに近いある日、研究室の卒研生8人の発表練習に長時間付き合った後、居室でメールを確認したところ、この編集後記の執筆依頼が届いていた。どのような内容で書くか悩んだが、今一番の懸案である卒業研究の指導に関することから書き始めようと思う。

私の学科では、毎年6~8人の4年生が各研究室に配属されて卒業研究を行う(修士課程に進む学生数は年にも依るが、私の研究室では今年5人が内部進学する)。こう学生が多いと研究テーマを捻り出すのも一苦労であるが、新米研究室主催者の私にとってそれ以上に悩ましいのは、それぞれの学生の性格や気質、資質に合わせて成長を引き出す指導方法の模索である。例えば、「学生のやる気と興味を引きだし」、「自ら主体的に考える学生を育てる」ことは理想の教育の一つであり、これは教員人事の公募で求められる「教育の抱負」に書く決まり文句になっている(私だけか)。

幸い、私の学生は、与えた研究課題に興味を持って一生懸命に取り組んでいる。しかし、「主体的に考えているか?」と問われると、まだまだそうとは言えない。それは、私の指導にも大きな原因がある。「分からない」と聞きに来られればすぐに答えを教えてしまうし、「プログラムがうまく動かない」と言われればバグを探し出して教えてしまう。たまに、こうすれば良いの

では?とアイデアだけ伝えて学生に考えさせようとしても、うまく行っていない様子を見ると、もどかしくなってしまう。「もう、俺に貸してみよう」となってしまう。そうなる学生たちは、研究の泥臭い部分や大きな壁を経験することなく、研究成果を得ることになる。これは現代っ子である彼らに「研究は楽しい」と思わせ、物理に対する興味を引き出すことには役立っていると思われるが、弊害として「自分で試行錯誤してみよう」とか「研究テーマの周辺について自分で掘り下げてみよう」といった主体性や能動性を確実に削いでしまっている。私としては「卒研生に高いレベルのことを求めるのは酷」とか「限られた時間内である程度のをまとめさせないといけない」とか、「まずは研究に興味を持たせることが先決」とか色々な言い訳を考えるのだが、学生を信じて見守るという根気のいる作業からただ逃げているだけという気がしてならない。まわりを見回してみると、人材を輩出している研究室の先生方は、学生に自ら考え・悩むことを上手に、そして忍耐強く課していることに気が付く。

そんな私は、学会誌が手元に届くと、学生部屋のテーブルに置いておく。学生たちも時々パラパラと目を通している。様々な研究内容に関する珠玉の記事は、学生の視野を広げ、興味をかきたてる。特に、まだ学会員にもなっていない学部学生には、例えば、海外での滞在記や新著紹介、そして公募情報ですら研究の世界を伺い知る新鮮で貴重な情報となっているように見受けられる。それは、彼らに「自分で調べてみよう・考えてみよう」と思わせる良い取掛か

りと刺激を与えているように思われる。日本物理学会誌は、研究者たちのための洗練された読み物と貴重な情報源としてのみならず、まだ学会員ですらない若い学部学生を刺激し、育てる役割も担っているのではないだろうか。記事執筆の際には、学部学生の読者にも分かりやすいことを意識しながらリードページやイントロを書いているのも良いかも知れない。

望月 維人 (mochizuki@phys.aoyama.ac.jp)

編集委員

森川 雅博(委員長), 長谷川 修司,
石岡 邦江, 今村 卓史, 沖本 洋一,
加藤 岳生, 岸根 順一郎, 栗田 玲,
桑本 剛, 鈴木 康夫, 須山 輝明,
高須 昌子, 田島 俊之, 田中 良巳,
田沼 肇, 常定 芳基, 藤井 芳昭,
松尾 泰, 松本 重貴, 水崎 高浩,
南 龍太郎, 目良 裕, 望月 維人,
李 哲虎, 渡邊 康, 片山 郁文,
板橋 健太, 藤山 茂樹

(支部委員)

奥西 巧一, 黒岩 芳弘, 小山 晋之,
酒井 彰, 中村 光廣, 野村 清英,
前田 史郎, 松井 広志, 水野 義之,
山崎 祐司

新著紹介小委員会委員

片山 郁文(委員長), 浅野 勝晃,
安藤 康伸, 宇田川 将文, 大西 宏明,
郡 宏, 越野 和樹, 小山 知弘,
西浦 正樹, 長谷川 秀一, 廣政 直彦,
間瀬 圭一, 三輪 光嗣, 山本 貴博

日本物理学会誌 第70巻 第4号 (平成27年4月5日発行) 通巻789号
Butsuri

©日本物理学会 2015

発行者 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-22 湯島アーバンビル 8F

白 勢 祐 次 郎

印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8

株式会社 国際文献社

発行所 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-22 湯島アーバンビル 8F

一般社団法人 日本物理学会

電話 03-3816-6201 Fax 03-3816-6208

郵便振替 00120-4-167544 定価 1部 2,400円 年額 25,000円

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人日本物理学会が所有しています。